

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	35人	算数	35人	理科	35人
第5学年	国語	38人	算数	38人	理科	38人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

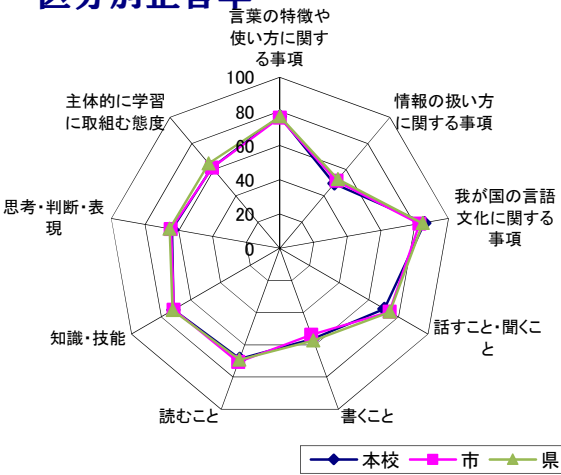
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.1	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	49.5	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	70.5	74.1	74.2
	書くこと	56.2	53.7	57.2
	読むこと	68.6	70.7	69.2
観点	知識・技能	71.8	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	61.7	61.6	64.7



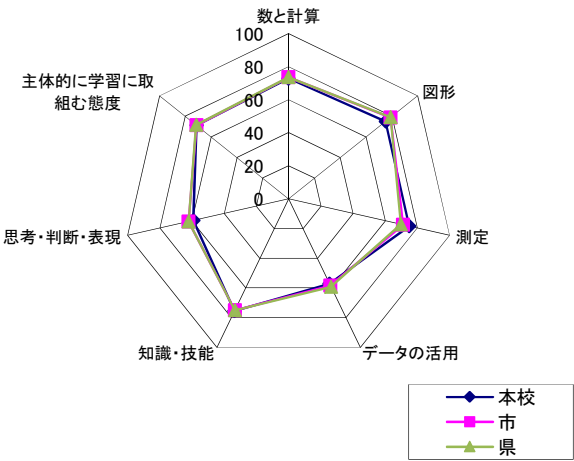
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県や市とほぼ同じである。 ○漢字の読み書きや主語と述語などの基礎的事項はよく身に付いている。 ●ローマ字の読み方についての設問では、54.3%で理解が不十分である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きは、朝の学習や宿題などで繰り返し練習する他に、日常生活の中で習った漢字を使う取り組みが成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・国語だけでなく、他教科でもchromebookを活用し、ローマ字に触れる機会を多くしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県や市を少し下回っている。 ○国語辞典の使い方については身に付いている。 ●説明文で段落相互の関係を捉えたり、資料を読み比べて説明したりする力が正答率約40%で身に付いていない。	・引き続き国語辞典を活用する機会を設ける。 ・説明文の学習の際、段落ごとの要点を整理したり、中心となる語を捉えたりする活動を丁寧に行い、読み取る力を身に付ける。また、段落と段落の関係や段落構成を考える活動を十分にとって理解力を高める。 ・新聞やインターネットの情報など、各教科等の中で様々な説明文に触れる機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県や市とほぼ同じである。 ○漢字のへんやつくりは県の平均を上回り、よく理解できている。	・引き続き、新出漢字の学習や朝の学習などでへんやつくりについて触れる機会を設け、定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市を下回っている。 ○話し合いにおいて、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では82.9%と県の平均を上回っている。 ●話し合いにおいて、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えたり、自分の考えを相手に伝えるように理由を挙げながら話したりする問題は県の平均を大きく下回っている。	・引き続き、話し合いの場を積極的に設け、話し方や聞き方を指導する。 ・授業の中で、他の人に分かるように理由を説明したり、他の人の考えに対して自分はどうかを話したりする活動を設け、課題に合った答え方を身に付けていく。 ・相手に伝えるように筋道を立てて話ができるように、朝のスピーチや日々の生活の中で指導する。
書くこと	平均正答率は県を少し下回ったが市を上回った。 ○自分の考えやそう考えた理由を明確にして文章を書くことは県の平均を上回っている。 ●17.1%が無回答となっている。指定された長さで文章を書くことは57.1%と県の平均を下回っている。	・学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。 ・朝の学習や授業中などに、文章の構成を意識して書けるよう、工夫した問題で繰り返し練習して定着を図る。
読むこと	平均正答率は県や市を少し下回っている。 ○物語文では、登場人物の気持ちについて叙述をもとに捉えることはよくできている。 ●情景と情景の関係や登場人物の気持ちを理解し、適切な文章を選び出す設問の正答率が大きく下回っている。	・学年に応じた音読の取り組み方を工夫し、目で文章を追ったり、短時間に集中して読めるような力をつけさせる。 ・引き続き、読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ、物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.9	73.5	73.6
	図形	75.2	79.0	79.1
	測定	74.9	71.1	69.8
	データの活用	57.1	58.4	59.2
観点	知識・技能	75.5	75.0	75.0
	思考・判断・表現	59.2	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	71.4	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

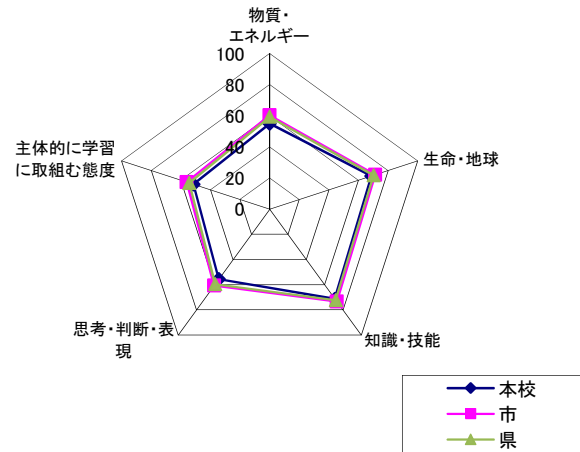
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○大きい数や小数のしくみについては正答率が市の平均を上回っており、おおむね理解が図られたと言える。 ●基本的な計算についての設問では、繰り上がりのあるたし算の正答率は市の平均とほぼ同じであるが、繰り下がりのあるひき算やかけ算の筆算では市の平均を下回っており、定着が不十分である。特に、整数から小数を引く計算では、正答率が5割以下と低く、理解が不十分であると言える。 ●かけ算の筆算についての設問では、正答率が3割と低く、かけ算の筆算の計算の仕方については理解し答えを求めることはできても、位ごとの数字の意味についての理解が難しいと言える。 ●口を使った文章問題の設問では、正答率が5割と低く、文章題を図や式に表す仕方についての理解が不十分である。	・日頃から朝の学習や家庭学習などを活用し、加減乗除の計算問題や文章題に繰り返し取り組んでいるが、確実な定着のためにも、今後も取り組みを強化して継続していく。特に、低学年での繰り上がりや繰り下がりの計算でのつまずきが、3、4年生での計算の間違いにつながるものが多いので、低学年での確実な理解が図れるように指導をしていく。 ・かけ算の筆算を指導する際には、単に筆算の順序を教えるのではなく、乗数を位ごとに分けて計算する意味を既習の計算を生かして考えさせるなどし、理解を深めていく。 ・文章から加減乗除の特徴が読み取れるように、低学年から線分図や数直線、口を使った式で表すなど、具体的な方法を示し、立式につなげられるように指導を工夫していく。
図形	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○正三角形の作図の設問では、正答率は8割とおおむね定着が見られる。 ●円の半径の設問では、正答率が6割と低く、理解が不十分であると言える。	・円や球の学習では、半径や直径などの用語の意味を確認し、確実な定着を図る。 ・図形の作図は、児童が描きやすい方法だけで作図するのではなく、与えられた1辺の続きを作図するなど、条件のある作図に取り組ませ、様々な方法で作図できる力が身に付くように指導する。
測定	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○時こくと時間の設問では、市や県と比べて正答率が高い。 ○長さについての設問では、正答率が8割以上と高い。 ●はかりの目盛りを読み取る設問では、市や県と比べて正答率が高いが、kgとgの関係性を問う設問では、正答率が5割と低く、理解が不十分であると言える。	・長さや重さの学習では、授業に体験的な学習を取り入れ、日常生活と関連付けて理解が図れるように指導を行っていく。特に、重さの学習の際には、児童自身が実際に具体物を手に持ち、重さを実感しながら測定する活動を取り入れ、重さの感覚を身に付けられるよう指導する。その際、1目盛りの大きさの異なる様々なはかりを用いて重さを図るなど、目盛りの読み方の習熟を図る。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。 ●棒グラフを正しく読み取る設問では、数値を読み取ることはできるが、2つのグラフを比較したり、設問に合わせた必要な数値を読み取って処理することに課題が見られる。	・グラフの値の読み取りでは、1目盛りの大きさが1以外の様々なグラフの読み取りに取り組み、習熟を図っていく。また、記述式の問題では、条件を整理して説明できるように、日頃の授業の中で条件を付けて書く指導を行い、苦手意識をなくすようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.9	60.2	59.2
	生命・地球	68.8	71.3	70.3
観点	知識・技能	71.2	73.4	72.3
	思考・判断・表現	55.5	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	51.4	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市や県の平均を下回った。 ○光の性質の学習ではソーラークッカーで料理ができる理由を説明する設問では7.8%県の平均を上回った。集光作用による発熱の原理を理解していると思われる。 ○物の重さの学習では形を変えても重さは変わらないことに関する設問では、正答率は71.4%で県の平均を5.9%上回った。質量保存の法則を観念的に理解している。 ●磁石の性質の問題では磁石につく物とつかない物について判別する設問において正答率が45.7%と低く、県の平均を下回っている。 ●風やゴムのはたらきの問題では風の強さと車の動く距離の関係を推測する問題において正答率が80%を超えていても、県の平均を下回っている。 ●実験結果について自分なりに理由を説明する問題については正答率が低く、県の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・理科における基礎的・基本的内容の定着が弱いと考えられる。従って、体験と目的、現象と原理を結びつける指導を繰り返し行う。 ・生活体験をもとにして考える力に課題がある。体験したことから身につけなければいけない力とをしっかり意識させられる指導をする。実験の目的を児童自身が明確に表現する時間を設けるなどして改善を図る。 ・覚えるべき基本的知識の定着を確実に行うよう反復学習等の手法を取り入れた授業を展開する。 ・推測したことを説明するような自分の言葉で回答するタイプの設問について課題が見られるので、考察や振り返りの時間で自分の考えを整理して表記する活動を多く取り入れるようにする。
生命・地球	平均正答率は市や県の平均と同等か下回った。 ○身近な自然の観察では、県の平均正答率を上回り、観察や記録の仕方についてよく理解していると思われる。 ○方位や太陽の動きの設問では、65.7%で県の平均を上回った。 ○こん虫の育ちでは、さなぎの様子を問う設問で、県と同等である。 ●ホウセンカの育ちについてグラフから読み取り、記録カードと結び付けて回答する設問では、65.7%で県の平均を下回っている。 ●日なたと日かげの温度変化をグラフから読み取る設問では、65.7%で県の平均を下回っている。 ●モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する設問では、48.6%で県の平均を下回っている。	・身近な自然の観察の仕方やチョウやこん虫の育ちなど、基礎的な理解はされているが、説明の仕方を自分なりの言葉で考える表現することに課題があるため、自分の考えを記述する機会を増やして指導していく。 ・太陽と地面の様子についてと、記録についてなどに関しても理解されているにも関わらず、両者ともグラフの読み取りや、読み取ったものを問題に結びつけることに課題があるため、理解したものとグラフを結び付ける活動と取り入れること、グラフ自体の読み取り方を学ぶ機会を増やしていくようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいとおもうことがある」の質問に対し、肯定的回答が9割を超え、市の平均を上回っている。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に対しての肯定的回答も市と同等であることから、児童が興味関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいることが分かった。今後も、児童の学習意欲を高める取り組みを行い、達成感を味わわせたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問に対し、5冊以上と回答した児童が7割を超え、市の平均を上回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の質問に対しての肯定的回答も6割を超え、市の平均を上回っている。読書の習慣が身に付いているだけでなく、本やインターネットを勉強に活用しようとする姿勢が身に付いていることが分かる。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問に対して、肯定的回答は8割を超え、市の平均を上回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答は市の平均を大きく上回っている。「友達と話し合おうとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答が9割であることから、友達がしっかり話を聞いてくれるという安心感があることがよい影響をもたらしていると考えられる。今後も学習指導だけでなく居がいのある学級経営にも力を入れていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問に対して、「1時間より少ない」「全くしない」と回答した児童が5割と市の平均より多く、ゲームをあまりしない児童が多い一方、「2時間以上」と回答する児童も3割以上いることが分かった。「ふだん、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」に「7時間以上8時間未満」と回答する児童が多く、市内の児童より睡眠時間が短い傾向も見られる。帰宅後の時間の使い方について、家庭への啓発を行っていく。

○「自分にはよいところがある」「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」の質問の肯定的回答が8割を超え、市の平均を上回っている。また、「家の人は、あなたが褒めてもらいたいことを褒めている」の質問に対する肯定的回答も9割以上と高い。児童は自分の努力を認めてもらえることで自己肯定感が高まってきていると考えられる。今後も、保護者の方と連携を図り一人一人の努力を認め、児童の自己肯定感を高めていきたい。

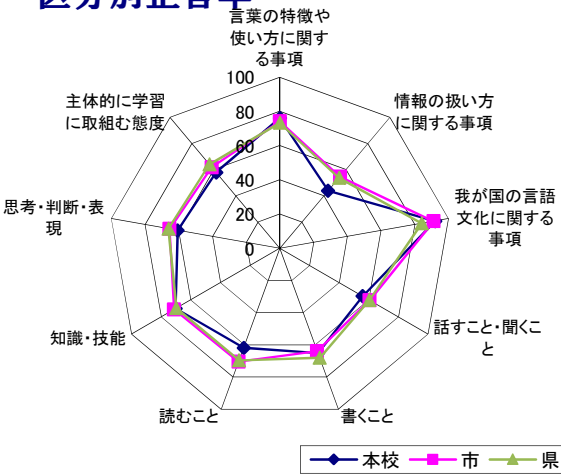
●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の質問に対する肯定的回答の割合は、市の平均を下回っている。また、「新聞を読んでいる」の質問に対して「ほとんど読まない」と回答した児童が9割を超えている。地域や社会で起きている問題や出来事に関心をもたせることが必要である。

●「国語・社会・算数・理科の学習は好きですか」の質問に対し、算数以外の教科では肯定的回答が市の平均を下回っている。特に理科で市の平均との差が大きい。学力調査でも理科の正答率が市の平均を下回っているため、特に理科において児童の興味関心を高めるような授業を展開し、知識を定着させるとともに、学ぶ楽しさを味わわせたい。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.1	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	43.9	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	92.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	55.8	60.6	60.4
	書くこと	65.1	63.8	68.0
観点	読むこと	61.8	70.4	69.6
	知識・技能	70.3	71.3	69.9
	思考・判断・表現	60.7	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	57.9	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

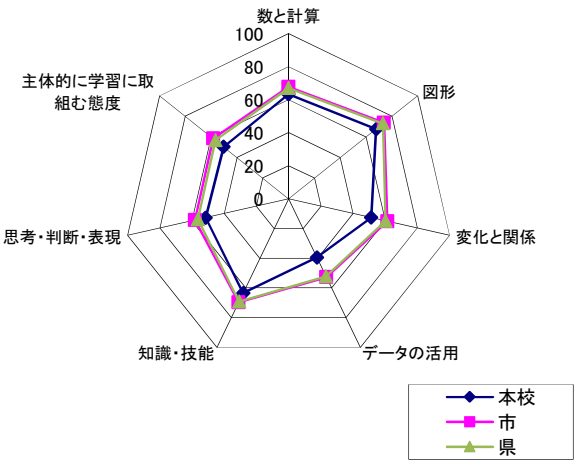
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県や市をやや上回っている。 ○漢字の読みや語句の意味などの基礎的事項はよく身に付いている。 ●修飾語が文中で果たす役割についての理解が課題である。	・漢字は、朝の学習や宿題などで繰り返し練習する他に、いろいろな熟語に触れたり、文章の中で漢字を使ったりする取り組みを行った成果が表れてきていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・修飾語の使い方は授業で取り扱う時数が少ないので、朝の学習や自主学習で使う機会を増やし、修飾語の意味と文中での役割について理解させる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県や市を下回っている。 ○漢字辞典の使い方についてはよく身に付いている。 ●説明文で段落相互の関係を捉えたり、資料を読み比べて説明したりする力が身に付いていない。	・引き続き漢字辞典や国語辞典を活用する機会を設ける。 ・説明文の学習の際、構成図にまとめる活動を多く取り入れ、段落のまとまりや相互関係が理解できるようにする。 ・新聞やインターネットの情報など、各教科等の中で様々な説明文に触れる機会を設ける。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は県や市をやや上回っている。 ○ことわざの意味や使い方がよく身に付いている。	・朝の学習や自主学習等でことわざに触れる機会を増やすとともに、教師側が意識的に会話の中にことわざを入れるようにし、さらなる定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市を下回っている。 ○話し合いにおいて、話の中心に気をつけたり、話し方の工夫に注意して聞いたりすることは県の平均を上回っている。 ●話し合いにおける司会の役割として、参加者の発言の共通点を文章にまとめる問題は大きく下回っている。	・引き続き、話し合いの場を多く設定する。少人数で行うときは、誰でも司会進行ができるようになるよう、毎回司会者を変えて取り組ませる。 ・聞き手に伝わるように、朝のスピーチや日々の生活の中で筋道を立てた話の仕方を指導していく。
書くこと	平均正答率は市を上回っている。 ○自分の考えを、理由を明確にして書くことはできている。 ●指定された行数や段落構成などの条件を守って書いたり、資料から読み取ったことを文章化したりするなど、活用型の問題では平均を下回っている。	・学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。 ・朝の学習や授業中などに、文章の構成を意識して書けるよう、工夫した問題で繰り返し練習して定着を図る。
読むこと	平均正答率は、県や市を下回っている。 ○物語文では、登場人物の気持ちを叙述をもとに捉えることができている。 ●物語文の情景や気持ちの変化を、場面の移り変わりや結び付けて想像し、適切な言葉を選び出す設問と、説明文の段落相互の関係を捉えて情報を読み取る設問の正答率が大きく下回っている。	・物語文では、場面ごとのまとまりを理解させ、人物の心情や情景を追うことで、物語文全体の構成を捉えられるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解させ、キーワードを見つけたり、段落相互の関係を考えたりする活動を十分に取り入れていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.3	67.8	67.0
	図形	67.8	73.9	73.1
	変化と関係	51.3	61.4	60.2
	データの活用	39.5	52.7	52.1
観点	知識・技能	63.4	69.7	69.2
	思考・判断・表現	51.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	50.4	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

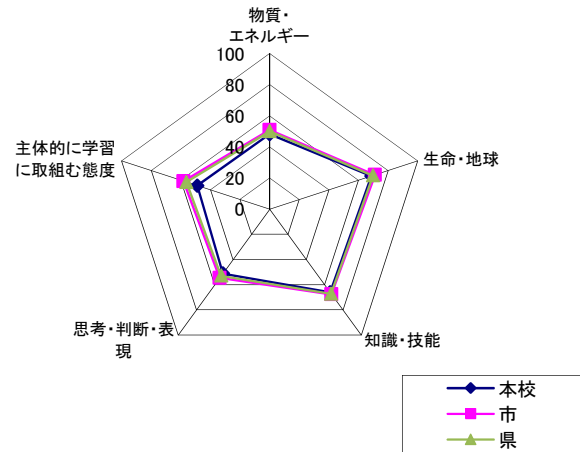
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○小数のしくみについての設問では、正答率が9割を超え、おおむね理解が図れたと言える。 ●億や兆の数について、十進位取り記数法についての設問では、正答率は市の平均と同じであるが、数の相対的な大きさを問う設問では、正答率が5割と低い。 ●がい数の設問では、正答率が市の平均より低く、特にがい数の範囲を求める問題では、正答率が5割で理解が不十分であると言える。 ●2けたのわり算の筆算の設問では、正答率が5割以下と低い。 ●小数のかけ算、わり算の設問では、正答率が市の平均より低く、特に小数第二位÷整数の設問では正答率が5割と低い。 ●計算のきまりの設問では、正答率が5割と低い。	・基本的な加減乗除の計算は、朝の学習の時間や家庭学習等を活用し繰り返し取り組み、確実な定着を図る。 ・わり算の計算では、条件に合わせた答え方が求められているので、日頃の授業においても条件を示して計算する指導を行い、定着を図る。 ・概数の問題では、上からある桁までの概数や位を示した概数など条件に合わせて概数にする仕方を復習すると共に、以上、以下、未満などの用語の意味を復習し、同様の問題に取り組むことで定着を図る。その際、概数の範囲を示す図の表記と以上、以下、未満の言葉を合わせて示し、理解が深まるようにする。 ・四則混合の計算では、()がある場合や加減乗除が混合する場合などの計算順序について復習すると共に、既習の計算法則を○や△などを用いた式で表せるようにして理解を深めていく。
図形	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●角の大きさの設問では、正答率は市の平均より低い。特に、180°より大きい角の大きさを求める設問では正答率は5割と低く理解が不十分であると言える。 ○長方形や複合図形の面積を求める設問では、正答率がほぼ9割と高い。 ●千円札のおよその面積を求める設問では、正答率が4割と低い。 ●四角形や直方体の設問では、正答率が市の平均より低い。 ●ひし形の作図の設問では、正答率が市の平均より低い。	・分度器の正しい読み方について復習すると共に、180°より大きい角度の求め方については、2通りの考え方について再度復習し、どちらの考え方でも求めることができるようにする。 ・面積を求める問題では、単に面積の公式を覚えるだけでなく、広さを直接比較するなど具体的な活動を取り入れ、量についての感覚を豊かにするように指導を行う。 ・図形の作図の学習では、与えられた1辺の続きを作図するような条件のある作図に取り組ませ、様々な方法で作図する力が身に付くように繰り返し指導を行う。その際、図形について辺の長さ、角の大きさ、平行、垂直などの図形の定義についても再確認しながら指導していく。
変化と関係	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●伴って変わる2つの数量についての設問では、正答率が市の平均より低い。 ●比例関係がある場合を割合を使って表す設問では、正答率が市の平均より低い。	・伴って変わる2つの数量から、もう一方の値を求める問題では、様々な問題場面を取り上げ、数の変化を表にまとめていくことを通して、2つの数の変わり方に気付けるように指導をしていく。 ・割合の学習では、線分図を活用し、比較量と基準量の数量の関係を正しく捉えさせるように指導を行う。そのためにも、日頃から線分図を描くことに慣れさせ、文章題から比較量と基準量を読み取れるように指導していく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●折れ線グラフと棒グラフについての設問では、正答率が市の平均より低い。 ●二次元表を読み取る設問では、正答率は市の平均より低い。	・折れ線グラフや棒グラフの学習では、単に値を読み取るだけでなく、グラフの数値の変化から分かることを読み取る学習を多く取り入れ、定着を図る。また、算数以外の様々な教科でグラフや表などの資料から情報を読み取る活動を効果的に取り入れ、グラフや表を活用する力を身に付けさせる。 ・二次元表の学習では、単に数値の読み取りだけでなく、2つの観点から起こり得る場合を分類して考えられるように指導を行っていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.2	50.8	50.0
	生命・地球	68.8	71.1	69.8
観点	知識・技能	66.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	51.1	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	48.9	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県を下回っている。 ○物の体積と温度の問題では、県平均を上回った。特に、実験の結果をもとに、手作りの噴水の原理を推測する問題では、県平均を10%上回った。 ○物のあたためり方の、予想が正しいときに得られる結果を推測する問題では、県平均を10%上回った。 ●一方で、物のあたためり方の冷気と暖気の説明をする問題では、県平均を約8%下回った。 ●電気のはたらきの、電池と電流の向きの関係の問題の正答率が10.6%とかなり低い正答率だった。 ●物質・エネルギーについての記述式問題(2問)ともに、正答率が50%以下で、しかも県平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・理科に関する基礎・基本の知識を習得できるように、ジャストスマイルドリルなどを用いて、学習をさらに強化していく。 ・生活体験と質問が一致していれば正答できるが、そうでない問題に課題があるので、実験結果や考察などから、さらに踏み込んで自分たちの生活に結び付けて考える時間を確保して指導していく。 ・図や言葉を見て、深く考えずに答えてしまっている場合が見受けられるので、問題文や資料をよく見て、与えられた情報を活用して問題が解けるよう、発展的な問題を扱う頻度をさらに増やしていく。 ・授業で扱う実験は解答できるが、それ以外の同じ内容の実験になると解答できていないので、授業で扱う実験以外の考察を考えることで、理解を深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市や県を下回っている。 ○1年間の植物の成長の問題では、正答率が80%を超え、しかも県平均を上回った。 ○動物のからだのつくりと運動の問題では、県平均を上回った。 ○月と星の方位磁針の使い方の問題では、正答率が県平均を19%上回った。 ●一方で、月と星の問題の月の見える方位や動き方の問題では、正答率が県平均を10%下回った。 ●オオカマキリの季節ごとの様子についての問題では、正答率が42.1%と、県平均を16%下回った。 ●1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、説明する問題で、晴れの日が解答できたがその理由を説明することができなかった割合が55%以上だった。	・理科に関する基礎・基本の知識を習得できるように、ジャストスマイルドリルなどを用いて、学習をさらに強化していく。 ・月や星の動きに関しては、授業の時だけの学習に終止せず、一人パソコンのカメラ機能を使い観察することで、普段の生活でも意識して観察できるよう指導していく。 ・短答や記述式の問題の正答率が低いので、授業において板書するだけでなく、自分の考えを積極的に書くよう指導する。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている。」という質問で、「はい・どちらかといえばはい」と回答した割合が79%で、市の平均を14%上回った。また、「家で、まちがえた問題について勉強している。」という質問では、「はい・どちらかといえばはい」と回答した割合が71.1%と、市の平均を5%上回った。このことから、間違えたところをできるようにしようという意識のもと学習に取り組んでいることが分かった。今後もその意識を継続してもち、学習に取り組ませたい。

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という質問について、ともに市の平均を上回ったことから、積極的に学習に取り組もうという児童が多いことが分かった。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」という質問では、約95%が「はい・どちらかといえばはい」と回答した。また「先生は学習のことについてほめてくれる。」という質問で、約90%の児童が「はい・どちらかといえばはい」と回答した。今後も、児童が活躍する場を意図的に設け、それを称賛する機会を増やしていきたい。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」という質問で、はいと回答した市の平均が34.5%だったのに対し、本校は18.4%と市の平均を大きく下回った。また「家で、自分で計画を立てて勉強している」という質問で、いいえ・どちらかといえばいいえと回答した割合が47%と市の平均を約20%上回った。このことや前述のことから、テストで間違えた問題や与えられた学習は行いが、苦手なところや学習するべきことを自分で考えて学習するということができていると考えられる。児童一人一人が何が苦手なのかを理解させた上で、自主学習などに取り組ませていきたい。

●「学校の授業以外で、1日当たりどれくらい勉強しているか。」という質問において、本校児童が「平日1時間以上」と答えた割合は47.2%、市の平均が59.9%だった。また、「休日1時間以上」に関しては、本校の平均が52.7%、市の平均が61.9%と、平日・休日ともに市の平均を下回った。最低でも学年×10分を実施できるよう、学習をする意義や大切さを理解させ、中身のある家庭学習にしていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問に対して、「2時間以上」と回答した割合が52.6%で、市の平均を大きく上回っている。「2時間以上」と回答した児童のうち18.4%は4時間以上ゲームを行っていた。テレビやビデオを視聴している時間についても、「4時間以上」と回答した児童の割合が28.9%で、市の平均を大きく上回っている。一方、「ふだん、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」の質問に対して、「8時間以上」と回答した割合は58%で、市内の児童より睡眠時間が短い傾向が見られる。長時間、ゲームやテレビ等に時間を費やし、睡眠時間が短くなっている児童が多いと考えられる。保健体育の学習等で睡眠の大切さや長時間のゲーム・テレビが体に及ぼす影響について指導するとともに、帰宅後の時間の使い方について、家庭への啓発を行っていきたい。

○「将来の夢や目標を持っている」の質問の肯定的回答が8割を超え、市の平均を上回っている。また、「誰に対しても思いやりの心をもって接している」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の質問に対する肯定的回答も8割以上と高い。児童は夢や目標をもち、周囲のためになる行動をしたいと思っていることが分かった。児童の「人のためにになりたい」という意欲を生かせるよう、一人一人の活躍の場を設け、児童の自己有用感を高めていきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・全教育活動を通した「書くこと」の実践 ・家庭学習の推奨	・国語の「書くこと」の領域を中心に、授業や日常生活の中に感想や考え等を記述する場を意図的に設け、習慣化を図っている。 ・年度初めに家庭学習メニューを配布し、自主学習ノートの秀作を掲示したり、家庭学習強化週間を年4回実施したりし、家庭への啓発を図っている。	・国語の「書くこと」の領域の平均正答が、4年生で2.5ポイント、5年生で1.3ポイント上回っている。 ・家庭学習の時間について、「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合が、市の平均より4年生で9.9ポイント、5年生で2.2ポイント上回っており、家庭学習の時間が市の平均より短い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語、算数、理科のすべてにおいて記述式問題の正答率が県を下回っており、自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多く見られる。	・全教科・領域において感想だけでなく、分かった事実や自分の考え等を記述する場を意図的に設け、習慣化を図り、書くことへの抵抗感を軽減する。	・朝の学習の内容を工夫し、基礎基本の定着に加え、語彙、記述問題、活用問題などに取り組む。また、新聞のニュースに触れるなど、家庭での取り組みに差が見られる部分を補っていく。 ・授業の振り返りの場を必ず設け、必要な学習用語や文字数などの条件を整えて書くよう指導を行う。